

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	e toco		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 令和 8年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 令和 8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援事業所で10年以上の経験を有する職員を配置している。 ※長年の実戦経験を持つ職員を配置することで、発達特性への理解に基づいた的確なアセスメントや、就園・就学を見据えた視点での支援が可能となっている。	経験豊富な職員が中心となり、日々の支援内容について助言や振り返りを行い、支援の統一と質の向上を図っている。 少人数であることを生かし、児童の小さな変化や成功体験を見逃さず、個別支援計画に反映している。 保護者様との日々のやり取りを大切に、家庭での様子や保護者様の思いを支援に反映するように努めている。	経験豊富な職員の知識や支援技術を、記録やミーティングを通して他職員へ共有し、事業所全体の支援力向上につなげていく。 地域の保育所・幼稚園・関係機関との連携を段階的に進め、就園・就学に向けた移行支援の充実を図る。
2	「静」と「動」を意識した環境設定と支援構成。 ※2階では、トレッキングやサーキット、バランスボール、風船等を取り入れた運動活動を行い、1階では机に向かう学習や手指課題の活動を行うなど、身体を動かす活動と集中して取り組む活動を意図的に分けて提供している。これにより、子ども達が気持ちを切り替えやすく、それぞれの得意・苦手に配慮した支援に繋がっている。	運動活動と課題活動の切り替え時には、言葉かけや視覚提示などの環境設定を行い、無理なく次の活動へ移行できるように配慮している。	運動活動・課題活動それぞれについて、目的やねらいを明確化し、活動プログラムとして整理・蓄積していく。 利用児童数の増加を見据え、空間の使い方や動線、安全面について継続的に見直しを行う。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	開所以降の期間が短く、支援実績や事例の蓄積が十分でない。	令和7年11月開所と運営期間が短く、利用児童数も少人数である為、支援事例や評価データの蓄積が限定的である。 一人ひとりの状態に応じた丁寧な個別支援を優先しており、記録の整理や分析に十分な時間を確保できていない面がある。	日々の支援記録やモニタリング結果を様式化し、継続的に蓄積・整理していく。 個別支援計画の評価を定期的に振り返り、支援の成果や課題を事業所全体で共有する。 少人数だからこそ得られる丁寧な支援事例を、今後の支援に生かせるように記録として残し、支援の質の向上につなげていく。
2	活動プログラムや支援方法の体系化が発展途上である。 ※運動活動や課題活動は実施しているものの、プログラムとしての整理や標準化は今後の課題。	子どもの状態やその日の体調・情緒に応じた柔軟な対応を重視してきたため、活動内容が個々の判断に依存しやすい。 「静」と「動」を取り入れた支援は行っているものの、活動のねらいや評価の視点を十分に整理しきれていない。	運動活動(トレッキング・サーキット等)と課題活動について、それぞれの目的・ねらい・支援方法を整理し、活動プログラムとして明文化する。 経験豊富な職員の実践や工夫を職員間で共有し、支援内容の属人化を防ぐ。 活動毎の振り返りを行い、子どもの反応や成果を次の支援に反映させる仕組みを整える。
3			